

■シラバス

授業の目標 Course Objectives

対象者への質の高い、安全・安楽な看護技術の提供を目指し、科学的根拠を考慮した日常生活援助技術の原理・原則を習得する。さらに、グループワークと演習、実技評価等を通じて、日常生活援助技術を意図的・系統的、安全・安楽に実践するための知識・技術・態度を習得する。

到達目標 Course Goals

1. 日常生活援助技術の意義と目的を説明できる。
2. 日常生活援助技術が対象者に与える心身の反応について説明できる。
3. 対象者への事前の説明が適切にでき、理解を得るための過程をたどることができる。
4. 日常生活援助技術を実施する際に必要とされる観察点を説明でき、観察できる。
5. 日常生活援助技術を安全・安楽に実施するために必要な行動の根拠を説明できる。
6. 日常生活援助技術を実践するために必要な物品の準備・後片付けができる。
7. ある状況設定の中で必要とされる日常生活援助技術の看護者の動作とその留置点を説明でき、実施できる。
8. 日常生活援助技術の実践を科学的に、また対象者の心身の反応から評価できる。
9. それぞれの生活援助技術について、自己の到達度と課題を明らかにすることができる。
10. 技術実施過程におけるリスクを認識し、安全に実施するための方法を考え、実践できる。

授業計画 Course Schedule

- 1・2. 排泄とその援助の意義と方法、その根拠につながる基礎知識の理解：ベッド上での排泄援助
3. 清潔と衣生活
4. 身体保清の意義と方法、その根拠につながる基礎知識の理解：入浴とシャワー浴
5. 身体保清の意義と方法、その根拠につながる基礎知識の理解：洗髪
6. 演習：洗髪（ケリーパッド・洗髪車）
7. 演習：洗髪（ケリーパッド・洗髪車）
8. 演習：足浴
9. 身体保清の意義と方法、その根拠につながる基礎知識の理解：口腔内保清
- 10・11. 演習：清拭（寝衣交換）
12. 食生活への援助の意義と方法、その根拠につながる基礎知識の理解：健康的食生活と食行動、食事援助の実際
13. 食事療法の理解：病院食の理解とシステム、NST と看護の役割
14. 病院の栄養部の見学
15. 病院の栄養部の見学

成績評価の基準と方法 Grading System

定期試験 50%、レポート・クイズ 10%、技術テスト・演習 40%で評価する。

■授業の取組・工夫等について

1. 授業の目的・内容

本科目は、疾病や障害などにより、日常の生活行動に支障がある対象者に対して、原理・原則に基づく、安全で、質の高い看護技術を習得することを目的としています。看護技術の実践には、常に対象者の心身の反応を観察し、対象者の立場を考えて行動すること、科学的根拠を理解し、自らの動作を効率的・意図的に組み立てて実践することが重要です。以上のことから、本科目は、演習科目とし、講義、映像教材の視聴、グループおよび自己演習、病院の栄養部見学、到達度を評価するための技術テストなどで構成しています。

2. 授業実施上の取り組み・工夫

(1) 技術実践に必要な知識を整理し、プリントおよび視聴覚教材を作成する。

初学者が、科学的根拠に基づく技術を習得する上で必要な知識について、複数の文献とVTR、最近の研究論文などを統合して、独自のプリント教材および視聴覚教材を作成し、

使用しています。

(2) 臨床の看護ケア場面がイメージできる工夫をする。

医療に関するイメージが少ない学生たちに、看護の喜び、意味や目的性を伝えるために、文脈を大切にしながら、臨床事例を紹介しています。事例紹介の時は、学生たちが説明に聞き入っていることを筆者にも感じ取ることができます。技術演習では、教員が看護技術のデモンストレーションを必ず実践し、リアリティーさと患者に向かう姿勢が伝わるように取り組んでいます。また、北大病院の栄養管理部の協力を得て、病院食とチーム医療の実際を学ぶことができるように、栄養部見学を取り入れています。

(3) 技術習得に向けた自己演習へのモチベーションを高める。

学生が自分の到達度と課題を確認し、達成感と自信を持って次の学習に取り組めるように技術試験を実施しています。技術は、『模倣』から『身につく』段階まで、段階性があり、学生が十分に身につけるには、時間と練習が必要であることは言うまでもありません。この練習が、看護技術の原理・原則に適った内容になるように、筆者の他に、良村教授、岩本准教授、渡辺助教、下田助教が学生の自己演習に積極的に介入しています。

3. その他

・ PC (パワーポイント) 中心の講義は行わず、必要なポイントのみ板書する。

以前は、PC (パワーポイント) を使用していましたが、教員が思っているよりも、学生に重要なポイントは伝わっていないと感じました。そのため、PC は、写真などの画像を提示したい場合のみ使用し、必要なポイントは板書しています。また、時には、教員が口頭で述べることを、自分で要約して記述するように促す、テキストや資料にマーキングするなど、授業がパターン化しないように工夫しています。

・ 90 分の時間配分を学生の参加状況により考慮する。

90 分全てを集中することはできないことは明らかであることから、学生の集中状況に応じて、時間配分を考慮しています。最初の 10 分程度を、前回の授業の想起に使用し、学生の関心を高め、本題に入ります。学生の集中状況をみながら (45 分程度を目安として)、指名して発表を促す、学生間の討議を取り入れる、雑談を取り入れるなどの工夫を柔軟に行うように努力しています。

以上、工夫点を紹介させていただきました。今回のアンケート結果は、学生たちの授業に臨む姿勢が反映していると考えており、それに応えることができるように、教育・研究に努力していきたいと思えます。

■ 学生の自由意見 (良かったと思う点)

- ・ 実習では、患者側に立って、どうしてほしいのか自分で考える形が良かった。
- ・ 課題もあり、難しい部分も多かったのですが、とても理解しやすく多くのことを学んだと思いました。先生もとても熱心で気がひきしまり、勉強しようと思いました。
- ・ とてもわかりやすい説明でした。
- ・ 実践することが多い授業だったので楽しく取り組めた。
- ・ 先生の説明がすごくわかりやすかったです。
- ・ 全て。
- ・ とても勉強になりました。病院内見学も楽しかったです。
- ・ 実際に看護師になったときに大切なことなどを教えていただいた良かったです。
- ・ 矢野先生の体験談がとてもよかったです。
- ・ 身がひきしまりました。がんばろうと思いました。
- ・ 実践的な技術練習があったこと。
- ・ 技術についていろいろなことを教えていただいたり、栄養部に連れて行っていただいたり、とても楽しい授業でした！
- ・ いろいろ実践的に行えて、楽しく授業できました。